

五業子

No. 230
—発行日—
2022. 10. 24
—編集—
崎工業高校新聞部
—発行—
崎工業高校新聞部

本校から出場したのは
糸山疏児さん(Ⓐ2)。
会場では九州各县から
集まつた選手たちが黙々
と目の前の作業に集中し
て取り組んでいました。
各担当の先生方も生徒が
作業する様子を静かに見
守らせていて、会場全体

今日の 一枚

今日の一枚は就職する三年生にとつて試練のひとつ、履歴書と面接の練習プリントです。

青春
日記

出場全部門で最優秀賞 高い技術力で 九州大会突破 全国へ

高校生ものづくりコンテスト九州大会

電子回路組立部門の会場は大村工業高校。本校からは坂本寛弥さん（J3）が出場しました。競技会場は非常に静かに…と思ひきや、各県の代表の選手に注目する先生方のお話声も少し聞こえてきて、各選手への期待の高さがうかがえる空間となつていました。会場はキーボードの音が響き、選手の表情は正に真剣そのものでした。結果は、最優秀賞を獲得し、十一月に長野県で開催される全国大会に出場することが決定しました。大会終了後坂本さんに感想を聞くと「終わつた直後は、結果が気になつて食事も喉を通らなかつた。高校生のものづくりで、二冠を目指しているので、二

七月十日に長崎県で開催された「コンテスト九州大会」。本校からは県大会で最優秀賞となつた四部門と九州大会から始まる家具工芸部門に出席。出場した部門すべてで最優秀賞を受賞し、全国大会出場を決めました。



▲細かい作業を気を抜かず

糸山琉兒さん（A2）
本校から出場したのは会場では九州各县から集まつた選手たちが黙々と目の前の作業に集中して取り組んでいました。各担当の先生方も生徒が作業する様子を静かに見守られていて、会場全体に張り詰めた空気が漂っていました。

しかし、競技が終了すると、張り詰めた空気も消え、課題作品が無事に完成しホッとしている選手、時間内にうまく完成せず、悔しさのあまり涙をする選手などさまざまな表情が見られました。終了後に糸山さんに感想を聞くと「時間内に作品が完成できたのでよかったです」とのこと。それだけ難しい課題だったことが伺えました。担当の田島由佳子先生は「練習通りの力を出し切っていたので結果に期待している」と競技後話されていました。

結果、糸山さんは最優秀賞を受賞。全国大会への出場を決めました。

A man wearing a dark blue racing suit with yellow stripes and the number 4 on the back is working on the front of a silver car. He is leaning over the hood, focused on something under the hood. The car is parked in what appears to be a garage or workshop. In the background, there's some equipment and a red object on the right.



▲過去最高のでき

らさらは北へいつたところにあります。長崎市から車で二時間弱かかるところでも移動が長く大変でした。さて、取材した自動車整備部のみなさんは「ものづくりコンテスト日本一」を目標に、「日曜日以外の毎日、練習に励んでいます。学校での練習の際も、大会と同じように

時間を見計らって、一つひとつ作業を素早く的確にで行きましょう。確認しながら練習していきました。大会では運営の方、出場選手の各学校の先生方が注目されれる中での作業。見ていいだけでも緊張しそうな中で、選手は集中して取り組んでいました。その様子に日頃の練習の成果を感じました。「ローマは一日にしてならず」の言葉のように長生生の毎日毎日、練習を積み重ねているからこそ、成り立っているものだと実感した一日になりました。ところで、私は三年生になつてから筋トレを始めました。が、思つていまつたよりも、今まで思つていた通りきつい：です。それは続けることができた今も続いている。それが今も続けることができる。お小遣いアップという姉の甘い言葉につられていました。それが今も続けることができます。ちよつと達成感も。筋肉痛にまづい程度にがんばります。（丸田み

私たちの生活のさまざま
な場面で利用されるプラ
スチック。軽くて強い
鋸びたり、腐つたりしない
い、大量生産がしやすい
電気絶縁性に優れています。
など多くの利点を持ち、ペ
ットボトル、食品トレ
ー、電化製品などいたる
ところにその製品を見る
ことができます。

ストロー や スプレー を プラスチック から 紙 な ど に 変更し、プラスチック を 減らす 動きも あります。ごみを 分別する こと で プラスチック 製品 の リサイクル 利用もさまざま な 形で 取り組ま れて い ます。ただ 回收された ペッ トボトル は 衣服や 文房具 として 再利用され て いま すが、何度か 再利用 すと 品質が 低下し、リサイクル できなくなります。それでも プラスチック の 使用量は 増加して い ま す。レジ袋 削減のため 登 ま す。

市場したエコバッタック。エコバッタックにもプラスチックのものが多くの持続性を持ち運びやすくなります。皆さんには、エコバッタックの中にも結構な数のエコバッタックがあります。その中で、エコバッタックがどういったものか。そう考えると、エコバッタックによると、エコバッタックの消費量はあまり多くないでしょ？ うか。すると、エコバッタックの削減の効果はあります。どうやら、エコバッタックを進めます。どうやら、エコバッタックを進めます。

限られていますが、ゼロでは「ペットボトルをきれいに洗つて捨てる」です。汚れがあるとリサイクルできなこともあります。たとえば、焼却処理され、再資源化でうという意識を持つて生きません。捨てる前に洗活をするシリサyclで生きるプラスチックの量が増えます。ごみを資源として活用することが持続可能な社会の実現につながります。

自信を持ち取り組む
自動車整備部門

一郎先生は「地元の大会ということもあり、負けられない雰囲気があつたが、プレッシャーに屈せなかつた。全国大会では課題が全面的に変わるので一度リセットして、またからがんばらせたい」と話されていました。

A photograph of a student in a black t-shirt and light blue jeans working on a wooden project at a workbench. The student is focused on their task, which appears to be a small wooden structure or part. The background shows a workshop environment with various tools and equipment.

配布された図面をもとに作品を作り上げる課題に各選手、集中して作業に取り組み、会場はとても緊張感がありました。寸法の正確さと加工速度を意識して作業を進めたという渡邊さん。制限時間内に作品も無事完成。最優秀賞を受賞。渡邊さんは「最優秀賞を取れるなんて思つてもられないなかつた。次の大会からもつとレベルが上がるで全力で取り組みたい」と感想を話してくれました。担当の許冬威先生は「冷静に作業を進め、練習通りにできて、安心しました。時間がギリギリになつた点がこれから改善したいところ」と、審査員をされていた北川友也先生は「この優勝は若年者ものづくりなどコンテストに向けて、いい弾みになりました」と喜ばれました。

